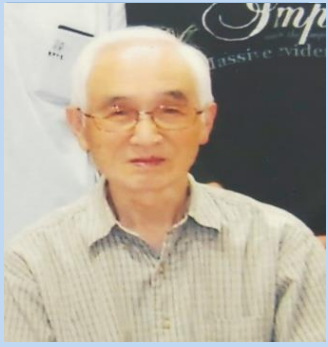


<b>出羽櫻酒造株式会社</b>		業種	製造業	
		事業所所在地	山形県天童市	
<b>被承継者</b>		<b>承継者</b>		
	東の麓酒造有限会社 代表取締役 遠藤 孝蔵		出羽櫻酒造株式会社 代表取締役社長 仲野 益美	
	事業承継時年齢	88歳	事業承継時年齢	55歳
	業種	製造業	業種	製造業
	事業所所在地	山形県南陽市	事業所所在地	山形県天童市
	資本金	8,000千円	資本金	20,000千円
	従業員数	11人	従業員数	40人
事業承継前の主たる事業内容		事業承継前の主たる事業内容		
清酒製造業		清酒製造業		
被承継者と承継者の関係		その他の親族外		
<b>事業承継の経緯</b>				
事業承継の検討を開始した時期 : 2010年3月				
<b>被承継者</b>		<b>承継者</b>		
親族内に後継者が不在であったのと、小規模の酒蔵のブランド力の強化を図る事が困難な状況にあった。		敷地等の問題もあり生産能力の限界と新規商品の開発が喫緊の課題となっていた。		
①廃業する事も検討した。 ②代々引き続いてきた事業を後世まで残したいの思いから事業承継を選択した。		①特になし。 ②我が国の誇る「國酒」を後世に引き継ぐ為にも酒蔵の灯を消さない為に事業承継を決断した。		
共通の知人を通じて交渉を始めた。		共通の知人を通じて交渉を始めた。		
特になし。		特になし。		
特になし。		特になし。		
承継者側の体制や方針を急いで導入するのではなく時間をかけて少しずつ浸透させる様に心掛けて進めた。		特になし。		
特になし。		特になし。		
<b>事業承継を行った時期 : 2016年12月</b>				
<b>事業承継の形態</b>		<b>事業承継 成立の決め手になったのは？</b>		
株式譲渡		被承継者	承継者	
		東の麓酒造の会社及びブランドを維持していくために、経営が安定している先であり、かつ経営方針が共感できたため。	弊社の生産量拡大と品質向上に伴う高価格帯商品の供給による売上及び利益拡大のため。	

<b>経営革新等に係る取組の標題</b>	
<b>清酒製造工程の革新による山形地酒のさらなる海外販路開拓事業</b>	
<b>経営革新等に係る取組の内容</b>	<b>その他の新たな事業活動</b>
<p>●当社は、明治25年（1892年）創業以来、山形県天童市にて一貫して地酒造りにこだわった日本酒メーカーである。一方、被承継企業である東の麓酒造はアメリカ最大の日本酒コンクールで9年連続金賞受賞をはじめ、日本国内の日本酒鑑評会「ワイングラスで美味しい日本酒アワード」においても2年連続金賞受賞を果たすなど国内外で評価が高い。しかし、前代表である被承継者が急逝され後継者が不在だったので、高い醸造技術力を引き継ぐためにも株式譲渡による事業承継を2017年に行った。</p> <p>●2016年に山形県の清酒が国税庁から地理的表示GI「山形」に指定されたことにより、常に新規引合いが絶えない状態が続いている中で、高い品質を維持しながら生産量を拡大することが困難な状況が課題であった。そこで、山廃仕込み専用の酒母仕込場の設置と最新の分析器を導入することで、生産性及び品質の向上、委託生産による生産量拡大をはかる計画を立てた。</p> <p>●山廃仕込み専用の酒母仕込場の設置により雑菌や他の酵母による侵入の軽減が実現し、温度の調整が容易になり、品質向上に繋げることが出来た。また、最新の分析器を導入した事により、個人差なく正確かつ定量的な分析が実現したことに加えて、分析時間が約200分から約20分へと大幅に短縮することができた。</p> <p>●こうした属人化（生産量を増やしたことで品質のバラつきが発生すること）解消による生産性及び品質の向上、生産委託による生産量拡大、高い醸造技術力を発揮できたことで、高品質・高価格帯商品の生産を実現する事が可能となった。高まる海外日本酒市場へのさらなる販路拡大を行う事が可能となり、売上及び利益の拡大を進める。</p>	
	
<b>地域経済やバリューチェーンへの貢献</b>	<b>補助対象経費の内訳</b>
日本全国の酒造会社、出荷数量が減少している状況の中、今回の事業承継を実施する事により企業の存続をする事に繋がったほか、雇用の維持も確保できた。	<p>■ 設備費</p>  <p>経費の主な使い道 設備費（山廃仕込み専用酒母仕込場設置工事費、アルコール自動分析装置導入費）</p>
<b>認定経営革新等支援機関の名称 : 山形銀行 宮内支店</b>	
<b>認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容</b>	
<input type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案
<input type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input checked="" type="checkbox"/> 補助事業の実施
本補助事業の事業計画の相談とアドバイスを頂きました。	
<b>今後に向けて～次の目標</b>	
2019年から2022年に向けて	属人化されていた業務の解消により生産性及び品質の向上、被承継会社に対する生産委託による生産量拡大、お互いの醸造技術力の情報交換による高品質・高価格帯商品の生産を実現し続ける。高まる海外日本酒市場、双方の販路を利用した販路拡大を図り売上及び利益の拡大を進める。
営業利益	10 %UP
<b>これから事業承継に取り組む事業者の方へ</b>	
<b>被承継者からのひと言コメント</b>	<b>承継者からのひと言コメント</b>
他界のためコメントなし。	今回の事業承継に取り組むにあたり、計画との比較をする事や目標、目的をもって取り組むきっかけとなり、色々な事を洗い出す事でボトルネックなどを解決する事が出来ました。事業承継に関しましては、被承継会社の歴史と文化及び被承継会社社員の想いを尊重しつつ、新しい風を承継会社及び被承継会社に起こす事が重要と感じました。